

【資料 1 - 1】

史跡小牧山桜の馬場トイレ改修に伴う試掘調査結果

1. 調査期間 令和元年9月17日（火）～20日（金）
2. 調査面積 約4 m²
3. 概 要

トイレと四阿の間にトレンチを1か所設定して調査を実施した。

トレンチ南半及び西端では、污水管、污水枥が埋設されていることを確認した。トレンチ南半部では、污水管の設置にあたり、現地地表下約50cmまで掘削されている。トレンチ北半では、現地地表下20～25cmで遺構確認面である地山（黄色シルト）面に至った。土坑1基、ピット2基を確認した。土坑は東半部を掘削したが、出土遺物はない。ピットは掘削を行っていない。いずれも遺構の時期は不明である。

トイレの基礎は現地地表下72cm、四阿の基礎は現地地表下48cmまで掘削して設置されており、いずれも遺構確認面（地山面）を掘り抜いて設置されている。

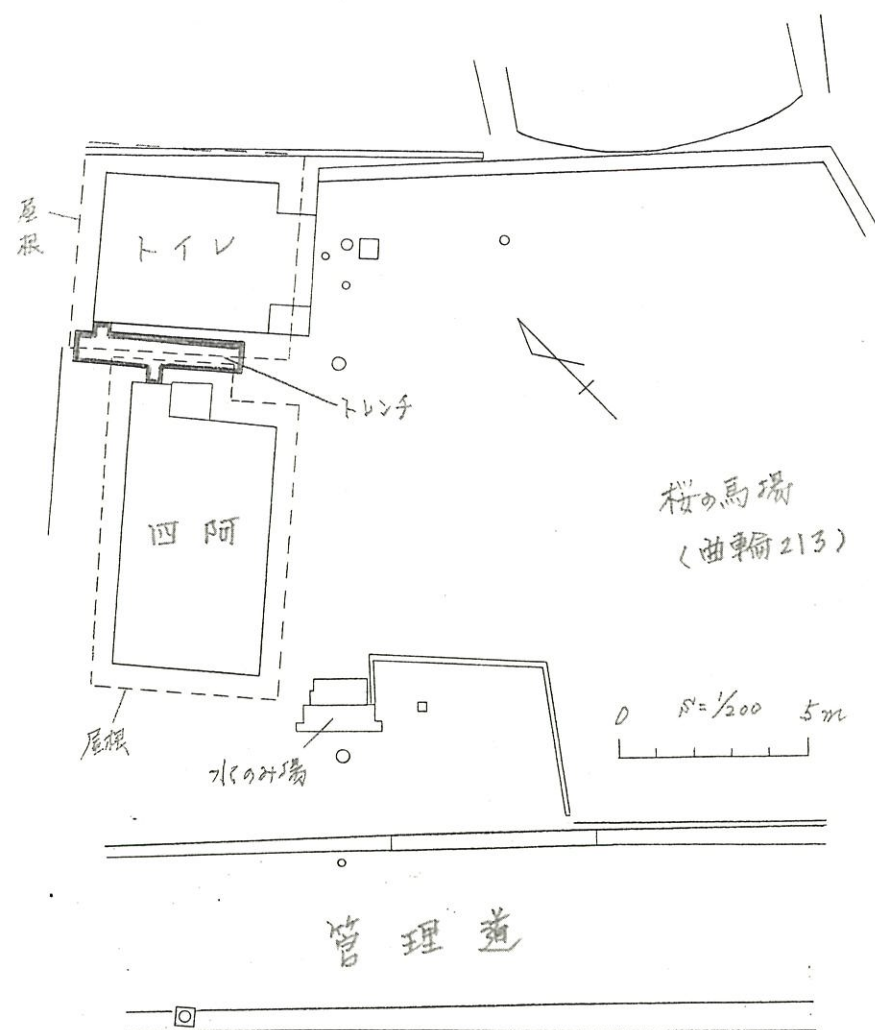


図1 トレンチ位置図 (S=1/200)

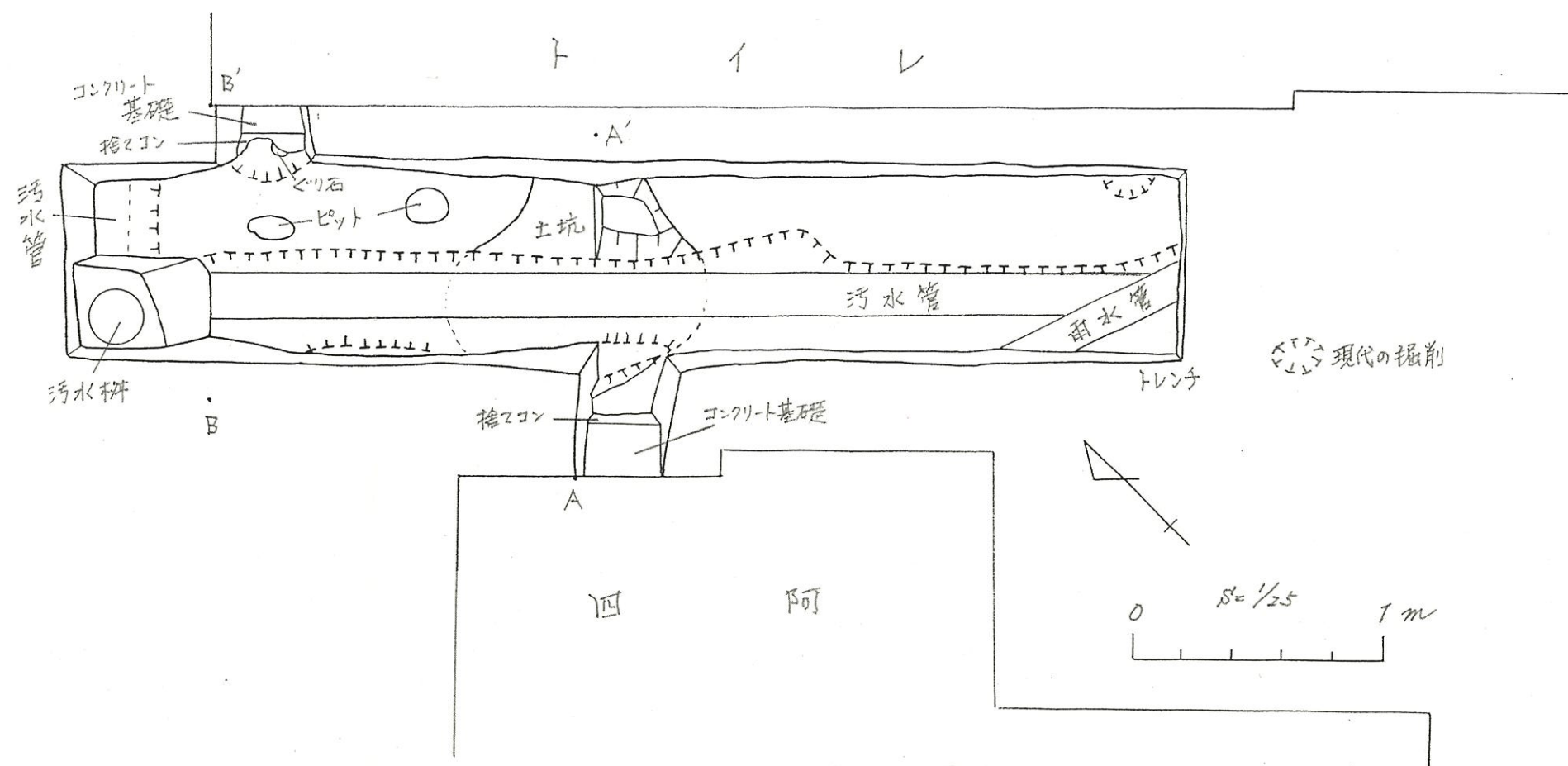


図2 トレンチ平面図 (S=1/25)

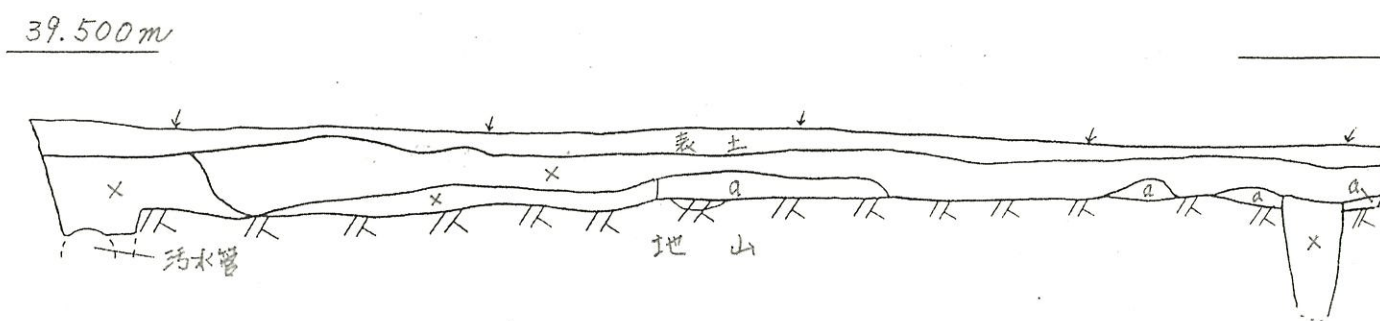


図3 トレンチ北壁セクション図 (S=1/25)

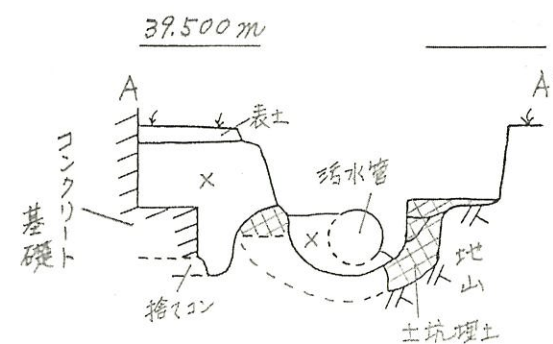


図4 A-A'セクション図 (S=1/25)

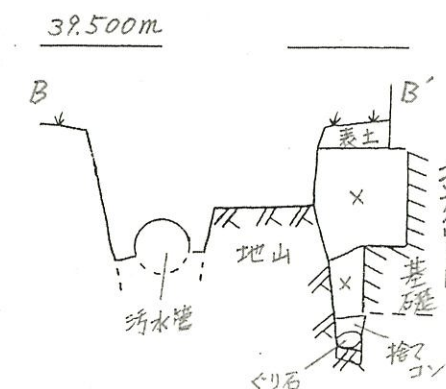


図5 B-B'セクション図 (S=1/25)

X ... 基礎埋戻土など現代の堆積土
a ... 褐色土 (黒色土混入)

史跡小牧山桜の馬場トイレ改修に伴う試掘調査



調査前（南から）



掘り上がり状況（南東から）



掘り上がり状況
（北西から）



トイレ基礎部分掘り上がり状況
（南東から）



四阿基礎部分掘り上がり状況
（北東から）

小牧山 桜の馬場屋外トイレ改修工事について

①基礎の形状について

屋外トイレ、四阿ともに布基礎

②既存埋設物の扱いについて

＜既存基礎＞

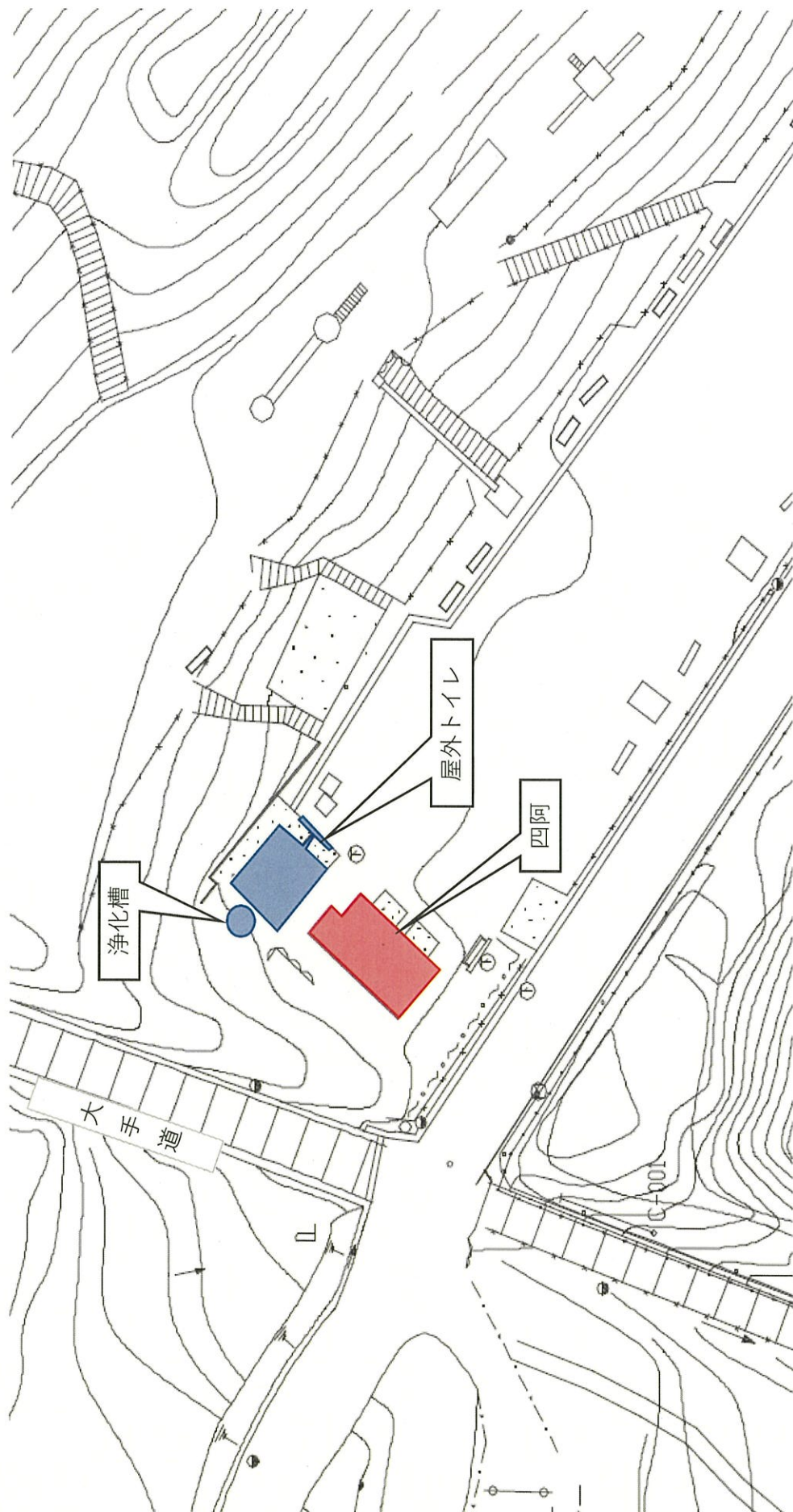
1. 現在の建築基準法に適合しないと考えられるため、既存基礎を基礎として流用することはできない。
2. 廃棄物処理法上、土留め等の機能を有するもの以外は残地が認められないため、流用を行わない場合は撤去する必要がある。

＜その他＞

1. 屋外トイレは給排水管の敷設により、土間及び基礎以外の部分も遺構が攪乱されていると見込まれる。
2. 屋外トイレは過去に使用していた浄化槽が残置されているため、撤去する必要がある。
3. 四阿は雨水排水管以外の埋設管等の構造がないため、土間及び基礎以外の部分は遺構が残っている可能性が高い。

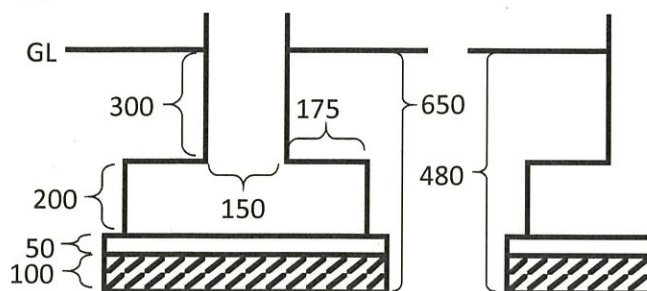
③今後の方針について

- ・既設建物（屋外トイレ及び四阿）の建物及び付随する地下埋設物は撤去する。（流用できる埋設管を除く）
- ・新しい屋外トイレの基礎は、埋設物（既設基礎、埋設管）の撤去に伴い掘削した範囲での設置とし、その掘削深度は、試掘による実測で確認された四阿の基礎底（GL:-480）を限度とする。
- ・既設の基礎範囲外を掘削する必要がある場合は、遺構面に影響の及ばない深さ（試掘により確認された深度は GL:-230）を限度とした掘削に留める。
- ・新しいトイレの建設に伴い掘削深度が不足する場合は、現 GL 上に盛り土をしてこれを補う。



基礎のサイズについて

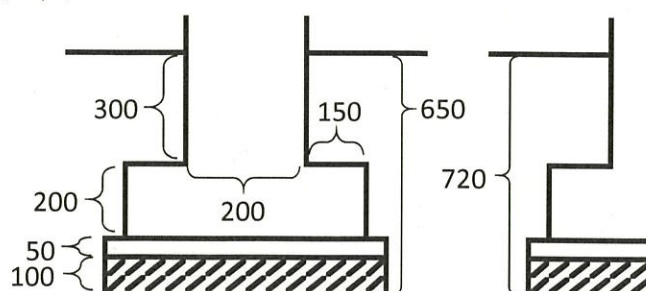
四阿



図面

実測

屋外トイレ

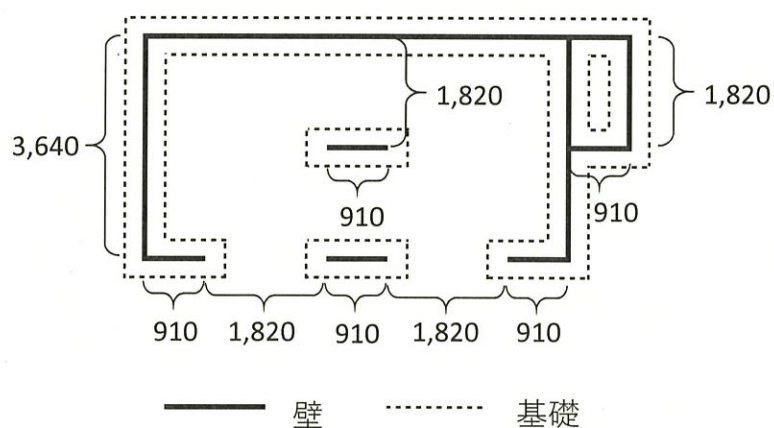


図面

実測

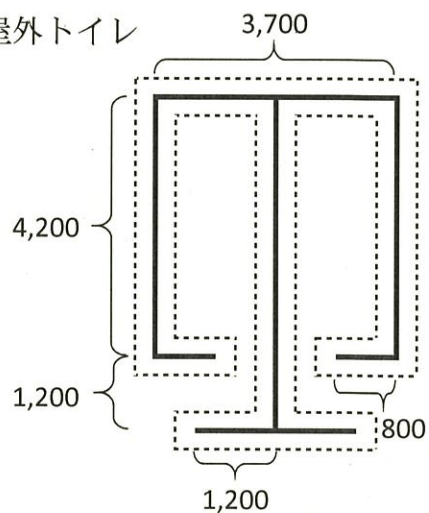
平面図について

四阿



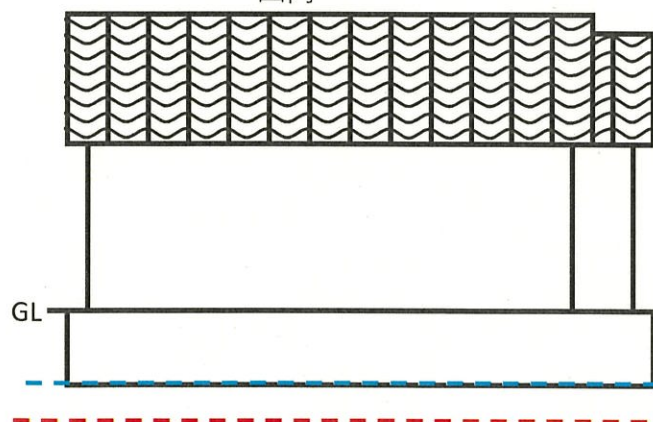
— 壁 - - - 基礎

屋外トイレ

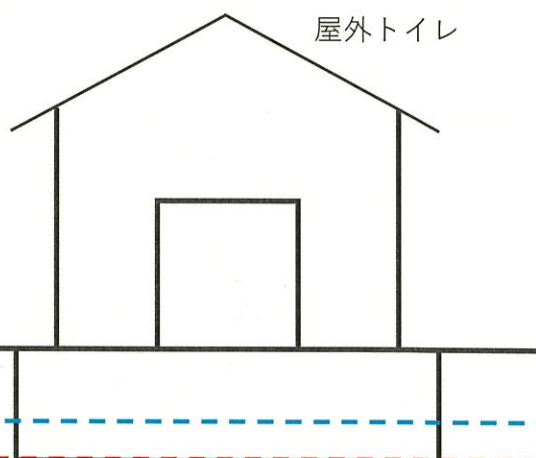


基礎底について

四阿



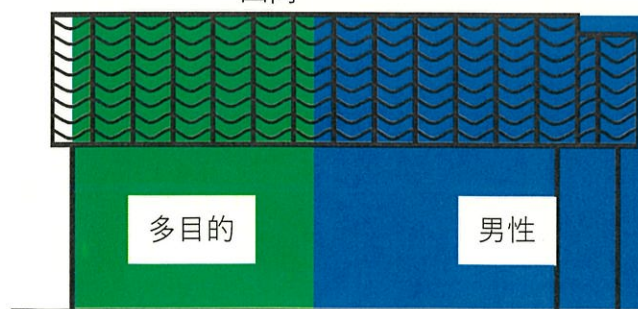
屋外トイレ



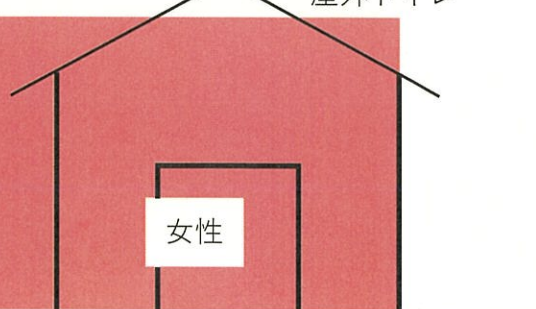
- - - 四阿基礎底ライン - - - 屋外トイレ基礎底ライン

新規屋外トイレの建物規模について (想定)

四阿



屋外トイレ



多目的

男性

女性

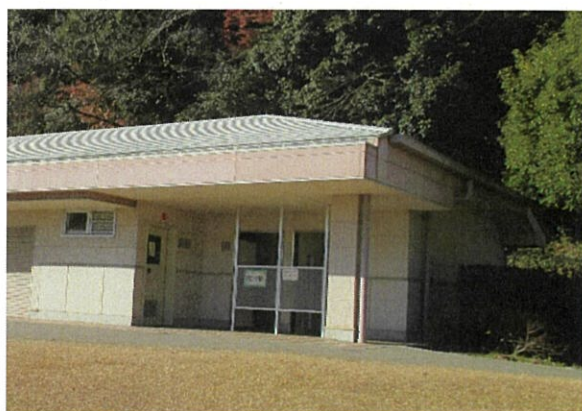
小牧山地内の屋外トイレ施設（現況）



搦手口屋外トイレ



北有料駐車場屋外トイレ



史跡公園内休憩施設屋外トイレ



桜の馬場屋外トイレ

その他



桜の馬場四阿



小牧山城史跡情報館



仙台城見聞館